

○井神議長 通告7番目、10番、田畑昭二議員、総括方式で質問をお願いいたします。

田畑昭二議員。

○田畑議員 おはようございます。

10番、田畑昭二、平成27年6月議会の一般質問をさせていただきます。議長の許可を得ましたので、通告に従いまして、2点、総括方式で質問いたします。

まず1点目につきまして、国保財政の健全化についてであります。

国保財政の健全化は、市民の健康増進と国保健全運営のため、医療適正化が大切であります。当市においても、生活習慣病予防を柱とした健康事業を熱心に取り組まれているところではありますが、さらに効果的・効率的な生活習慣病予防等の保健事業を行うためには、有効なデータに基づいた現状分析や課題の洗い出しが必要不可欠になってまいります。

そこで、医療機関から保険者に送られる請求書、いわゆるレセプトに着目し、活用し、成功している自治体が多くなってきております。その先駆けとして、人口24万人の広島県呉市の方式が有名であります。

レセプトには多くの場合、複数の傷病名、診療行為、投薬名などが記載されており、傷病名とそれに対応する診療行為、投薬名との関係・関連性は書かれてはおりません。また、主病名に全ての医療費が振り分けられたり、現在、治療していない過去の病名で書いてあったりしており、すなわち単純にレセプトを集計するだけでは、傷病名ごとの医療費は算出できない、治療中の傷病名が把握できない等の課題があり、効果的な保健事業への活用が困難であり、本人への適切な保健指導ができなかったと報告されておりました。

呉市は、この課題を解決するために、医療とICT、すなわち情報処理技術の両方にノウハウを持つ民間企業と協力し、企業の独自のレセプト分析技術により、傷病名と診療行為、投薬名とを関連づけることで、傷病名ごとの医療費を算出でき、レセプトデータを保健事業に活用できる有効なデータに変えることが可能になりました。呉市は、このレセプトデータの分析結果をもとに、糖尿病の重症化予防、頻回受診者への指導、ジェネリック医薬品普及のための通知といったさまざまな保健事業を実施し、投資額の約8割という成果があらわれております。すなわち医療費の削減という成果が上がっております。

例えば、ジェネリック医薬品通知で、薬剤費を年間で1億4,730万円削減、糖尿病性腎症重症化予防事業は、平成22年から25年の指導対象者260名のうち、透析移行者はゼロで、新規透析患者数の減少に貢献しているそうです。

この呉市モデルの保健事業は大きな反響を呼び、平成25年6月、国が公表した日本再興戦略に呉市モデルがデータヘルスとして明記され、法改正により平成26年度中に全ての保険者において、データヘルス実施のためのデータヘルス計画の策定が義務づけられたことで、全国への自治体への展開が進んでいるところであります。

当市におきまして、第2次岩出市長期総合計画で、国保財政健全化にレセプト点検の強化が示されておりますが、この国より義務づけられたデータヘルス計画の策定への取り組み状況はどのようなになっているか、お尋ねいたします。

2点目、観光振興についてであります。

今年度予算の配分についても観光振興に対し、ウエートを置いた予算となっており、当市においては、これから本格的な観光振興に取り組む元年と言っても過言ではないと思います。

そこで、まずお尋ねいたします。

1点目は、今議会の行政報告の中で、市事業としてのねごろ歴史資料館の基礎工法の再検討を要するとありましたが、具体的にどのような工法になるのか、説明をお願いいたしたいと思います。

2点目は、根来寺周辺観光促進事業の将来展望と将来的に当市への観光客数の目標はどのように設定されているか、お尋ねいたします。

3点目は、第2次岩出市長期総合計画には、道の駅「根来さくらの里」を拠点として観光情報の発信に取り組みます。とありますが、現在の「根来さくらの里」で対応できるのか、お尋ねいたします。

以上で、1回目の質問を終わります。

○井神議長 ただいまの質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○杉原生活福祉部長 おはようございます。

田畑議員の一般質問にお答えいたします。

国民健康保険では、国保財政健全化の取り組みの1つとして、レセプト点検を強化してございます。医療費の請求書であるレセプトは、平成23年度途中に電子化され、国保連合会において電子データにより一括して経年的に管理することができるようになったことから、一次審査及び二次点検を国保連合会に委託し、点検事務の効率化を図っております。

それに加え、市では、レセプト点検専門員を雇用し、国保連合会では、点検できない部分である遡及して変更があった国保資格の有無や給付割合の誤りについての

過誤返戻、訪問看護療養費に係る介護と医療情報の突合、柔道整復療養費においては、国保連合会の点検後、市においても資格及び内容点検等を実施することで、レセプト点検の強化を図っているところです。

データヘルス計画は、レセプト情報や検診等のデータを分析データとして活用し、保険者は分析に基づいた保健事業を効率的かつ効果的に展開していくため、各自治体において策定に努めることとされております。

現在、国民健康保険中央会がレセプトや検診等のデータ分析に必要なシステムを開発し、昨年10月ごろから分析データの提供が開始されたところであります。市といたしましては、今後、このシステムを活用して、国保加入者の健康状態や疾患構成等の全体像の把握に努めるとともに、これらのデータ分析に基づくデータヘルス計画を策定してまいりたいと考えてございます。

○井神議長 事業部長。

○船戸事業部長 おはようございます。

田畑議員ご質問の2番目の1点目について、お答えいたします。

ねごろ歴史資料館建築設計を進める中で、建物の基礎構造の検討を行うに当たって調査を行ったところ、地盤に軟弱な部分があり、これに対応する設計を行った結果、法令上の基準は満たすことができる基礎構造での設計成果を得ました。しかしながら、造成工事を進める中で、予想外の湧き水があり、公共施設としての強度や耐久性を考える上で、十分な対策を施して建築を行うべきものであると判断し、改めて詳細な地質調査並びに土質試験を実施した上で、再度基礎構造の検討を行うこととしたものであります。

次に、2点目につきましては、根来寺周辺観光促進事業として、ねごろ歴史資料館並びに旧県議会議事堂を観光の拠点として、大門までの歩行経路の整備、大門前の小公園の整備、広域農道の歩道整備、また、多言語案内看板の設置などを行う計画であります。これらの事業により観光振興を図ることで、地域の農産物や特産品を初めとして、関連する産業が全般的に活性化するように施策を展開してまいります。

なお、当事業に伴う具体的な観光客数の目標設定はございませんが、関西国際空港からのアクセスの便がよいこと、関西や近隣地域から訪れやすい位置にあることなどの好条件を生かしてPRを行ってまいります。

また、大阪府、和歌山県、泉南市並びに関係各種団体と組織する根来街道グリーンツーリズム振興協議会を最大限に活用し、大阪、泉南方面と連携した誘客活動を

行うなど、積極的な取り組みを行ってまいります。

次に、3点目、根来さくらの里における観光情報の発信について、お答えします。

現在、さくらの里では、屋外に岩出市を中心とした那賀地方並びに泉州方面の観光案内看板を2基設置してあります。施設内では、観光案内パンフレットやポスターの掲示とあわせて、和歌山県が設置した道路情報端末も稼動しており、観光や道路情報の発信を行っています。

また、観光案内だけでなく、J Aや生産者団体による各地の特産品の出張販売や近大水産研究所の協力を得た「めっけ井」の販売など、県内産品の情報発信も行っております。

なお、現在、事業中であります、ねごろ歴史資料館並びに旧県議会議事堂についても、新たな観光情報の発信拠点として活用し、岩出市の情報を発信していきたいと考えております。

○井神議長 再質問を許します。

田畑昭二議員。

○田畑議員 まず、最初の国保財政の健全化につきまして、再質問させていただきます。

岩出市の場合は、聞くところによりますと、保健事業の内容につきましては、県下トップクラスの非常にいい成績で、いろんな面では頑張っているとお聞きしております。

その上で、今回もデータヘルス計画を今後していくという方向で、今答弁されましたけども、ある程度、具体的に、いつごろまでにどのような形ででき上がっていくのかというタイムテーブルが、もしあれば教えていただきたいなと思います。

そして、もう1つは、この保健事業は、ただ単に健全財政化だけじゃなくて、当然、医療の適正化や保険者の健康度の向上というような成果を生み出すわけですけども、その波及効果としまして、被保険者の健康寿命の延伸ということで、要するに、若い方も年寄りの方でも元気で、生産年齢人口が確保できるということのメリットがあるそうですね。それと、保健業務の委託先として設立された会社が、呉市の場合、あるそうなんですけど、そこで50名の看護師の雇用が確保されたというふうに報告されております。

そういうことで、地方創生にもかなりつながっている事業として、非常に国としても注目しているというふうに呉市のほうでは報告されておりましたけども、そういうことで、この事業というのは、やはり、我が市にとっても非常に大切な事業で

ありますので、その辺も考慮されて、これから、マンパワーのこともいろいろ問題も課題もたくさんあるかも知れませんが、その辺も先進地等の情報もしっかりとっていただいて、頑張っていたらなと思っております。

2点目の観光事業につきましてですけども、観光客数につきましては、目標設定はしておりませんという答弁でしたが、これ、誤解あったら申しわけないんですが、長期総合計画では、具体的に、平成27年度末は150万人の観光客数を見込んでいると。具体的な数字が上がっているわけですね。平成32年度は200万人という、この根拠というのは、果たしてどういう根拠で、今年度末までに、恐らく4年ほど前につくった長期総合計画ですから、そのときには、今のそういうこともあんまりわからなかった状況なんかも知れませんが、その辺、ちょっと余りにも大きな数字が出ておりますので、何か、その当時はいろんなことが想定されて、こういう数字が出たのかなと。ただ、今、行政報告でも市長が言われましたように、観光事業というのは、岩出市にとって生命線になってくるということで、かなり先行投資も、これからはなされると。恐らく、うまく回っていけば、かなりの観光客数も見込めるし、また、にぎわいもたくさん出てきそうな場所もたくさんあると思います。

そういうことで、まず1点目は、長計で出た人数の目標設定というのは、ちょっと訂正せなあかんのじゃないかなということが1つと、もう1つは、私、個人的に前、ねごろ大唐の関係で舞鶴に視察行ったことがあります。そのときに、向こうの担当者の方が、実は国から特区申請が今おりてきたばかりですということで、書類をたくさんいただきました。

どういう特区申請かといいますと、当然、舞鶴も農業が非常に盛んで、京野菜とか、たくさんつくっているところではありますが、やはり、農業をこれからやめようかなという高齢者の方も結構いらっしゃるそうなんです。そういった方が古民家、大きな家を持っていいらっしゃるんですが、その古民家を民宿にするのに、今の法律ですと、なかなか消防法等々で民宿にするのは物すごくハードルが高いそうなんです。特区を申請しまして、ハードルを低くしますと、本当に簡単に民宿事業が可能になるということで、ようやく通ってきましたということで、そのとき、担当者がすごい喜ばれてました。

いわゆる宿泊場所ですね、それと非常に古い家に泊まりたいなという方とか、近代的なホテルもいいんですけども、そういう古民家等も民宿に、非常にもてはやされている時代に今なってきました。将来的ではありますが、岩出市も、そういう観光のにぎわいが出てきまして、できましたら、岩出に1泊していただいて、ゆっく

りと散策をしていただくとか、自然に触れ合うとか、また、文化・歴史等を学んでいただくとか、そういう時間的余裕をしっかりと持っていただくのにも、宿泊施設も、今現在、立派な施設いっぱいありますけども、さらに、ちょっと角度の違ったものも、これから割と、都会の方々は憧れて来られるんじゃないかなという思いがあります。

そういうことで、これからいろいろ研究していただきまして、そういう特区申請も視野に入れながら、民宿という事業をやりやすくするように、また、農家の方々も副業として、それが希望するんであればできますよということで、市のほうもバックアップしてあげれるような体制があれば、また別の事業として発展するようないい思いもいたします。それちょっと蛇足ですが、そういうことも、私、いろいろ聞いてきた経験がありましたので、つけ加えました。

この件について、何かお考えあれば答弁願います。

以上です。

○井神議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○杉原生活福祉部長 田畑議員の再質問に一括してお答えいたします。

まず、データヘルス計画の策定に向けての具体的な進め方ということでございますけれども、市といたしましては、データヘルス計画は、複数年を計画期間として策定するものでございます。

現時点では、健診等のデータも関係することから、第2期の特定健診等実施計画の計画期間終了時期に合わせることも1つの選択肢であると考えてございます。平成29年度に一体的に策定していけたらなと、このように考えてございます。

また、策定に際しましては、レセプト等により疾病別の性・年齢別受療率や医療費の負担額が大きい疾患、医療費の負担が増大すると予想される疾患を明確にすることが必要であったり、また、健診データにより、性・年齢別受診率や受診勧奨の必要なものの割合等を確認すること、また、介護データから介護給付費を把握する必要がございます。その上で、保健事業の実施の対象となる健康課題を明らかにするということが必要であろうかと、このように考えてございます。

先ほど、議員のご説明にもございましたけれども、やはり、医療費の適正化という部分と保健事業を推進していくという部分でのデータベースシステムでございまして、やはり、出力できるデータをいかに使うかということが大切なところでございまして、それには、やはり、専門的な当然知識あるいはノウハウといった

ことも当然必要になってくるということでございますので、ここら辺につきましては、先進市等の情報等を収集しながら、岩出市として、健診事業、それから医療費の適正化に取り組んでいきたいと、このように考えてございます。

○井神議長 事業部長。

○船戸事業部長 田畑議員の再質問にお答えします。

まず、1点目の長計の件ですが、平成32年で200万人の目標を持っているということは、もちろん存じております。大変厳しい数字となっておりますが、長期総合計画ですので、設定の変更というのは非常に難しいかと思えます。ただ、この目標の達成に向けて、精いっぱい努力していきたいと考えております。

次に、2点目なのですが、観光振興の研究ということで古民家というものが出されましたが、古民家そのものについての考えは、今のところ持ってないんですが、市では、観光振興によって、岩出を訪れる観光客の皆様にお金を使っていただくことが大事だと認識しております。お土産物として、農産物では、ねごろ大唐、なばな、クレソンなどの特産品の栽培奨励を行い、これらの農産物を使った加工食品や料理レシピの開発にも取り組んでいます。

また、市内では、イタリア料理、フランス料理、スイーツのお店など、女性に好まれるような飲食店も数多くあり、観光振興につながるたくさんの要素を持っていると思っています。

このような情報をウェブサイトやフェイスブック、動画サイトなど、時代に合った方法で宣伝活動を行うと同時に、先ほど申し上げました、根来街道グリーンツーリズムなど、近隣の市町と広域連携し、岩出に立ち寄っていただけるルート設定を行い、旅行会社、バス会社などに積極的に働きかけ、観光客増加を図っていきます。

また、閑空に近いことから外国人観光客も増加の傾向にあります。これに対応するために、案内看板やパンフレットなどの多言語化を進め、外国人観光客の誘致にも取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○井神議長 以上で、田畑昭二議員の一般質問を終わります。